

金 沢 市 の 沿 革

(1) 立 地

金沢市は、県の中央よりやや南寄りに位置しています。東は白山山系、砺波丘陵をはさんで富山県小矢部市・南砺市に接しており、西は日本海に面し、北は内灘町・津幡町、南は白山市・野々市町と境を接しています。

地形は、市の東部から南部にかけて、白山山系と砺波丘陵の山地によって構成され、西部から北部にかけて、その半ばが沖積平地となって金沢平野の北部を占めています。

また、本市は二つの稜線に抱かれた犀川（延長41.7km）と浅野川（延長28.9km）の流域・山・台地・平野・海すべての自然条件にめぐまれた天然の都邑であります。

(2) 市 勢

金沢の地名の初見は、いまのところ天文15年（1546年）「石山本願寺日記」となっております。文明3年（1471年）蓮如上人が北陸地方を布教し、その結果一向宗門徒の勢力が強化されました。農民を中心とした信者が加賀の守護富樫政親を高尾城に滅ぼし、現金沢城址の地に「金沢御坊」として真宗本願寺の末寺が建立され、寺内町として近江町、後町、南町などがつくられたのがはじまりといわれています。後に「百姓の持ちたる国」といわれ、独特の政治がこの地で行われました。

天正11年（1583年）前田利家が金沢城に入り、二代利長と共に金沢城や街を整備して、加賀藩14代300年におよぶ藩政の基盤を築き、加賀、能登、越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続けてきました。

三代利常は、各地から美術工芸家を招き、九谷焼・大樋焼・蒔絵（漆器）・加賀友禅・加賀象嵌・金箔の基礎を築き、能楽・謡曲・茶道・生花などと併せて伝統文化として今に伝えられています。

日本三大名園の1つとして「廣大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望」の六勝を兼ねそなえた有名な兼六園も前田家代々の築造によるものです。

明治4年（1871年）廃藩後金沢県と称し、同9年石川県第10区、同11年の金沢区を経て、明治22年（1889年）市制が施行されました。

市制施行後は県庁所在地として行政、文化、経済の中心として発展を続け、大正14年以来10数次にわたる隣接町村の合併により、市街地規模の拡張を図っています。

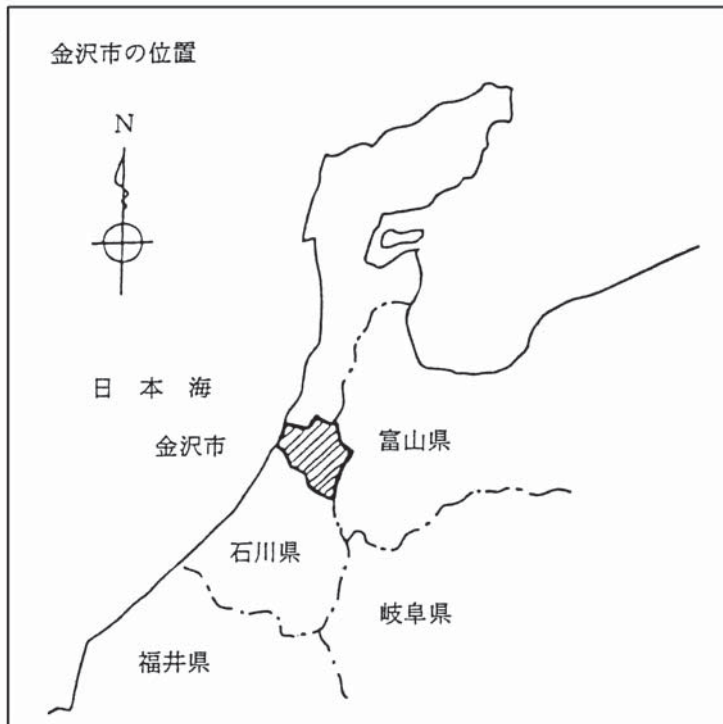
昭和39年（1964年）「長期計画」、昭和45年「60万都市構想」、昭和49年「新長期計画」、昭和59年「21世紀金沢の未来像」、昭和60年「基本構想」、昭和61年「基本計画」を策定、これらを指針として、市政の運営を進めてきました。

平成7年12月には、新たな視点・発想に基づく都市づくりの指針として「金沢世界都市構想」を策定し、「世界の中で独特の輝きを放つ都市づくり」「住む人一人ひとりの幸せをめざす都市づくり」を進めることとなり、平成8年度から10か年の「金沢市新基本計画」を策定しました。

平成8年（1996年）4月1日中核市に指定され、平成18年3月には、「金沢世界都市構想 第2次基本計画」を策定し、「元気なまち・金沢をつくる」「美しいまち・金沢をつくる」「安心して暮らせるまち・金沢をつくる」「心豊かな人をつくる」の3つの目標を掲げ、活力ある世界都市金沢をめざしています。

(3) 面積・人口（平成23年5月1日現在）

面積 467.77km²
 人口 462,752人 （462,478人……平成22年国勢調査）
 （男） 224,151人
 （女） 238,601人
 人口密度 989.3人/km²
 世帯数 193,041世帯 （191,227世帯……平成22年国勢調査）



金沢市の位置

極 東	東経	136° 49'
極 西	東経	136° 33'
極 南	北緯	36° 20'
極 北	北緯	36° 40'
東西の距離		23.3km
南北の距離		37.3km

金沢市と7姉妹都市

